

新規事業採択時評価対象事業

高松港 重要港湾改修事業(玉藻地区)

香川県 土木部 港湾課

事業概要

- 高松港玉藻地区は、駅から近接した位置にあり、離島を結ぶ多数のフェリーや高速船が就航しているほか、クルーズ客船も入港する等、人流・賑わい拠点である。周辺ではあなぶきアリーナ香川などの建設が行われており、更なる交流機会の増加が期待される。
- 本事業は、高松港の既存岸壁について延伸を行い、大型クルーズ船の受け入れを可能とすることで、玉藻地区の更なる人流・賑わい拠点形成による地域の活性化を目指す。

【事業概要】

事業主体 : 香川県
事業期間 : 令和6年度～令和9年度
総事業費 : 8.8億円
整備施設 : 岸壁(-10m)延伸(栈橋形式)
 ドルフィン(2基)

【整備スケジュール】

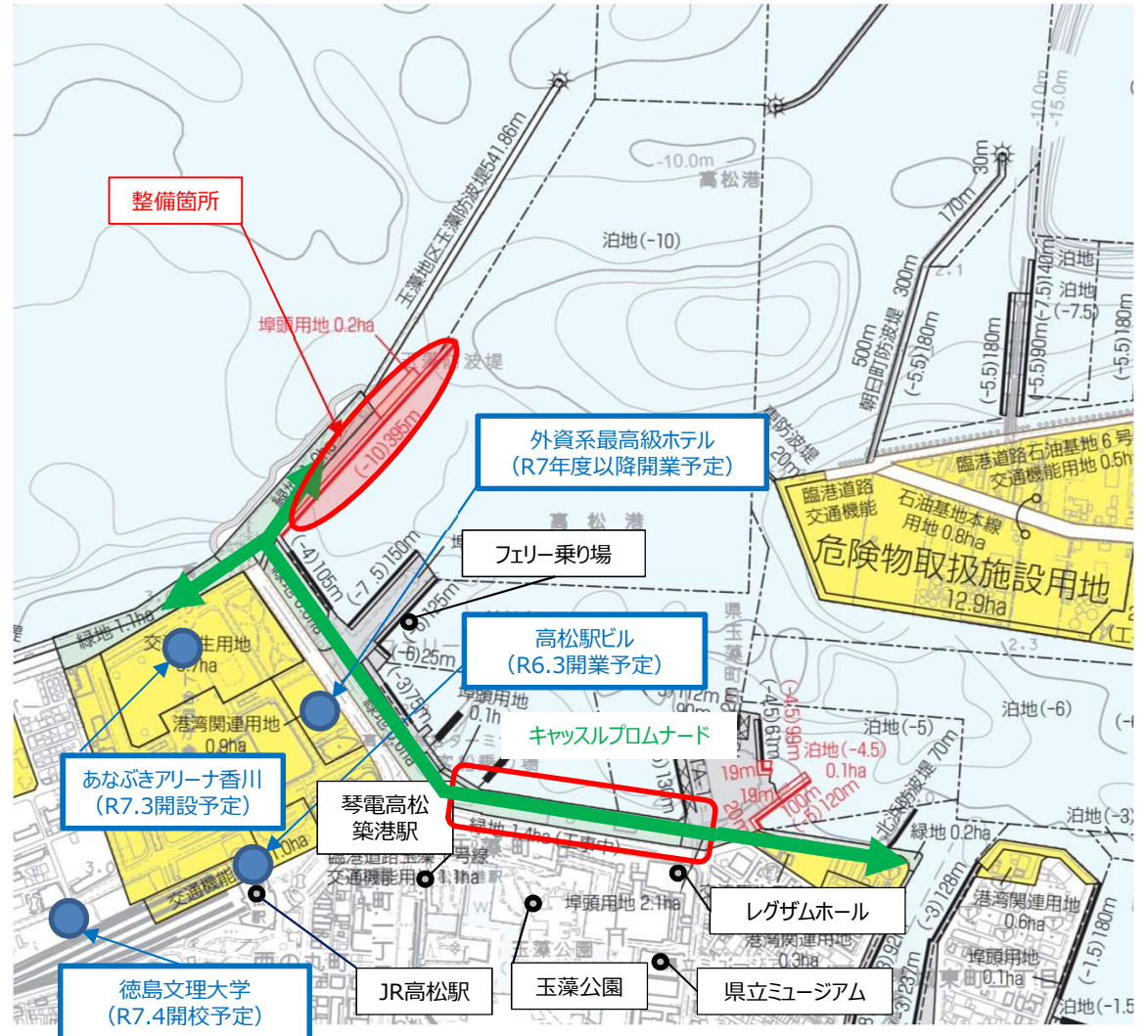
年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
詳細・実施設計		←→			
工事	栈橋下部工		←→		
	栈橋上部工			←→	
	ドルフィン工等※		←→		

※連絡橋設置含む



事業背景（高松港の現状～人流・賑わいの拠点～）

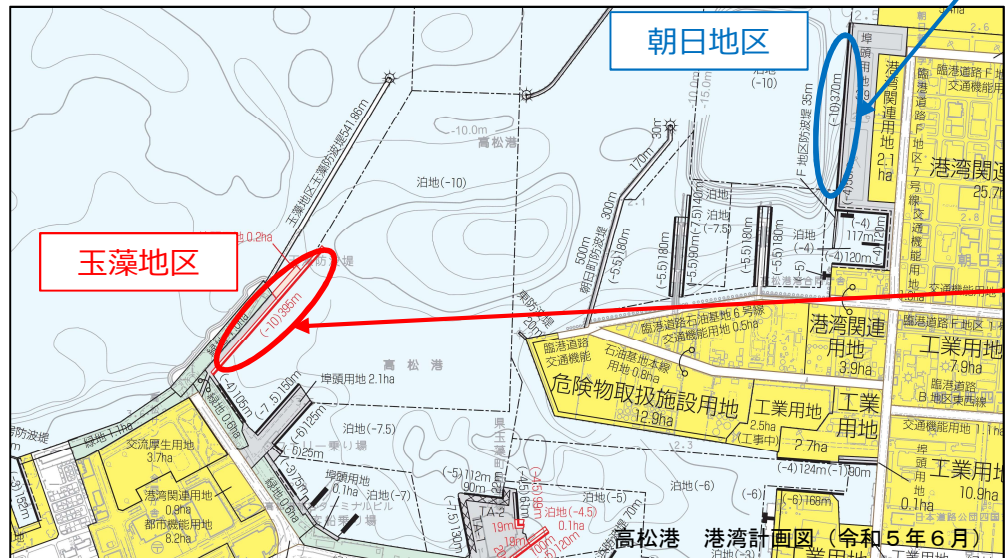
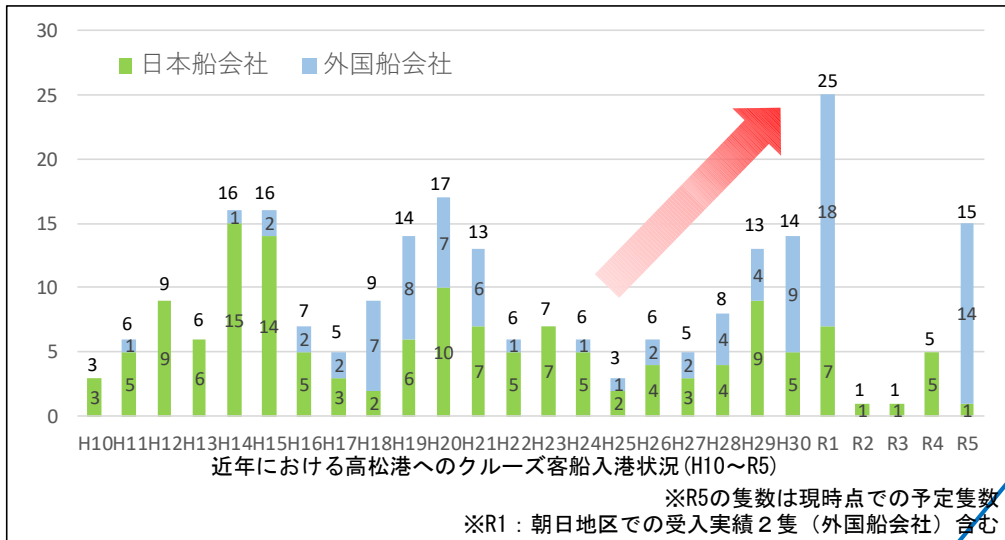
- 高松港玉藻地区は、JR高松駅、琴電高松築港駅、高速バスターミナル等に近接するとともに、離島との間に多数のフェリーや高速船が就航する交通の結節点である。
- 今後、あなぶきアリーナ香川、外資系最高級ホテル、高松駅ビル、徳島文理大学、キャッスルプロムナードの整備が予定されており、更なる交流拡大が期待されている。



高松港 港湾計画図（令和5年6月）

事業背景（高松港の現状～クルーズ船の寄港状況～）

- 高松港へのクルーズ船の寄港は、外国船会社を中心に平成25年以降増加傾向にあり、令和元年には過去最高の25回を記録した。
- クルーズ船は玉藻地区での受け入れを基本としているが、受け入れ可能であるのは5万トン級までであり、5万トン級を超える大型クルーズ船については、朝日地区のコンテナ貨物岸壁での受け入れることとしている。



事業の必要性（大型クルーズ船寄港の機会損失）

- 朝日地区での大型クルーズ船受入れは、以下の問題を抱えている。
 - ・多くの船会社より、人流・賑わい拠点である玉藻地区への大型クルーズ船の寄港希望が寄せられている。
 - ・コンテナ貨物岸壁での受入れとなるが、定期便コンテナ船が利用しており、限られた日時での受入れとなる。
 - ・朝日地区のコンテナ貨物岸壁から人流・賑わい拠点であるサンポート地区へのアクセスには、タクシー・バス等の2次交通の利用が必要。
- これらの問題が要因となり、高松港への寄港を断念し、大型クルーズ船寄港の機会が失われている。

●大型クルーズ船が高松港への寄港を断念した実績

- ・船会社：5社（5万トン級超～10万トン級 計7隻）



高松港 港湾計画図（令和5年6月）

玉藻地区において大型クルーズ船に対応した施設整備を行う必要がある。

費用対効果分析（分析の条件）

■計上費用（C）

- | | | |
|-----------|----------------------|---------------------|
| (1) 建設費 | : 整備施設（栈橋・ドルフィン）の建設費 | (期間： 令和6年度～令和 9年度) |
| (2) 維持管理費 | : 整備後の維持管理費 | (期間： 令和10年度～令和29年度) |

■計上便益（B）

- | | |
|---------------|---------------------------------|
| (1) 国際観光純収入便益 | : 大型クルーズ船（5万トン級超）の乗船者・乗組員の観光消費額 |
| (2) 営業収入向上便益 | : 大型クルーズ船（5万トン級超）の係留に係る係船料 |

※便益計上期間：令和10年度（整備完了後）～令和29年度（既設岸壁の耐用年数（50年））の20年間
※寄港可能となる大型クルーズ船（5万トン級超）について、ヒアリングおよび問い合わせに基づいて隻数を設定

○クルーズ関係者へのヒアリング

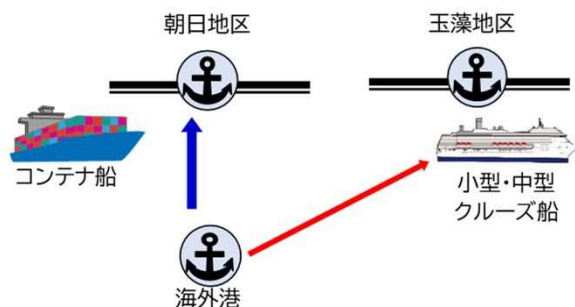
- ・どの船会社も瀬戸内海に魅力を感じており、整備後、高松港へ寄港する可能性は高い。
- ・整備が行われた場合、5万トン級超の船が高松港へ寄港する回数は、船会社の数と同程度である。

○高松港寄港に関する問い合わせ

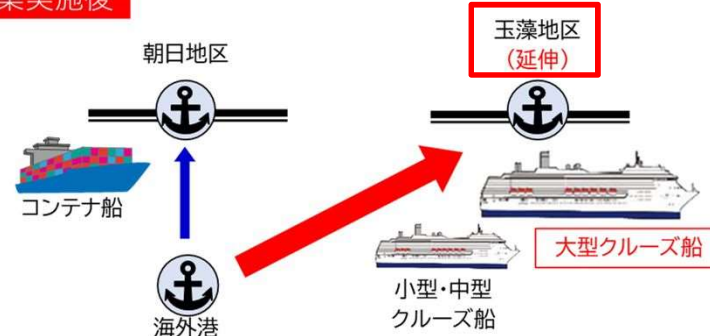
これまでに高松港への寄港を断念した船会社（対象船舶：5万トン級超に限る）は5社

5隻/年として設定

事業実施前



事業実施後



費用対効果分析（分析の結果）

項目		金額（現在価値化後）
費用（C）	建設費	7.3億円
	維持管理費	0.5億円
	合計	7.7億円
便益（B）	国際観光純収入便益	18.3億円
	営業収益向上便益	0.3億円
	合計	18.5億円

※端数処理のため、各項目の金額の和は合計と一致していない

費用便益比（B/C）	2.4 > 1.0
純現在価値（B-C）	10.8億円

1. 新規事業採択時評価の視点

①事業の必要性等に関する視点

1)事業をめぐる社会経済情勢等の変化

- ・高松港へのクルーズ船の寄港は、外国船会社を中心に平成25年以降増加傾向
令和元年には過去最高の25回を記録
- ・高松港玉藻地区はあなぶきアリーナ香川などの建設が進み、交流機会の増加が期待。
- ・クルーズ船は近年大型化の傾向。新型コロナウイルスにより運航休止となっていた国際クルーズ船の運航再開。

2)事業の投資効果

- ・費用便益比(B/C) = 2.4
- ・再開発が進むサンポート地区を含む地域の活性化やにぎわいの創出に寄与

3)事業の進捗状況

令和4年度に基本設計を完了。令和5年度は地質調査を実施予定。

②事業の進捗の見込みの視点

定期旅客船、漁業組合などの港湾利用者への調整については、大型客船航行安全対策調査検討委員会や香川県地方港湾審議会において、事業の概要について説明しており、事業への反対意見もなく、円滑に進捗が図れる見込みである。

2. 対応方針（案）：事業実施